

【日植防シンポジウムから】

鹿児島県におけるサツマイモ基腐病の発生状況と防除対策の取り組み

鹿児島県農業開発総合センター 福 田 たけし 健

はじめに

サツマイモは、干ばつや台風等の自然災害に強い作物で、国内各地で栽培されている。鹿児島県のサツマイモ栽培面積は、焼酎原料用を中心に、でん粉用、青果用および加工用向けに約 10,000 ha 栽培されており、全国 1 位である。しかし、2018 年に県内の産地で多発生していた立枯・塊根腐敗症状の一部が、国内で発生報告のないサツマイモ基腐病（以下、基腐病）であることが判明した（西岡，2022）。基腐病の症状は図-1 に示すように、発生初期には株元の茎が黒色～暗褐色に変色し、次第に株全体が枯れる。その後、被害は周辺の株に拡大し、生育後期には地上部茎葉の多くが枯死する。また、塊根

（イモ）は、なり首側から腐敗が進むため、減収する。基腐病による収量の減少は生産者の経営を直撃し、関連業界は原料の確保に苦慮する事態になっている。

I 基腐病の発生状況

基腐病は糸状菌（カビ）の一種で、ヒルガオ科植物のみに感染する。本病は、発病した茎や塊根で伝染し、病原菌は植物残渣上で越冬し、翌年の伝染源になる。国内のサツマイモでの発生は、2018 年 11 月に沖縄県で初めて報告され、12 月には鹿児島県、2019 年 1 月には宮崎県で確認された（小林，2019）。その後は全国各地に拡大し、34 都道府県で発生が認められている（2024 年 2 月 20 日現在）。



株元の黒変



地上部の黄化・しおれ



地上部の枯死



イモの腐敗

図-1 サツマイモ基腐病の症状

Occurrence and Management of Sweet Potato Foot Rot Caused by *Diaporthe destruens* in Kagoshima Prefecture. By Takeshi FUKUDA

（キーワード：基腐病，貯蔵前処理，蒸熱処理，排水対策，抵抗性品種）